

# 令和元年度四国地域における持続可能な 社会構築に向けた調査事業

報告書（概要版）

令和2年2月

四国経済産業局

# はじめに

持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成されるSDGsが国連サミットで採択され、これをテーマとした大阪・関西万博が2025年に開催されることが決定されるなど、「持続可能」というキーワードをもとに世界が大きく変わろうとしています。

四国地域では、これまでも様々な機関によりSDGsと親和性の高い取組が実施されています。しかしながら、SDGsをはっきりと意識・認識し、これを組み込んだ事業活動や経営の実践ということでは、これからという段階にあるものと考えられます。

本事業では、SDGsやESG投資等の新しい時代の流れが四国地域の企業活動にどのような影響を与える可能性があるのか、どのような事業機会をもたらすのか等を研究会を通じて検討しました。さらに、「四国SDGs経営フォーラム」を開催し、その成果等を公表しました。

既にSDGsの取組を実践されていらっしゃる方、これから取組をスタートされる方、皆様のSDGs活用の参考となることを期待して、本事業の報告書（概要版）を取りまとめました。

## 目次

1 . SDGsに関する世界と日本の動き、四国地域の現状	1
2 . SDGsの取組事例	2
3 . 「四国SDGs研究会」開催概要	5
4 . 「四国SDGs経営フォーラム」開催概要	6
5 . 研究会要約	7
6 . 今後に向けて	8
各種情報の紹介	10

# 1 . SDGsに関する世界と日本の動き、四国地域の現状

持続可能な開発目標（SDGs）とは、2001年に策定されたミレニアム開発目標（MDGs）の後継として、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない（leave no one behind）」ことを誓っています。SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル（普遍的）なものであり、日本としても積極的に取り組んでいます。出典：外務省ウェブサイト

## 持続可能な開発目標（SDGs）

- 2015年9月の国連サミットで全会一致で採択。「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のため、2030年を年限とする**17の国際目標**。（その下に、169のターゲット、232の指標が決められている。）



**普遍性** 先進国を含め、**全ての国が行動**

**包摂性** 人間の安全保障の理念を反映し「**誰一人取り残さない**」

**参画型** **全てのステークホルダーが役割を**

**統合性** 社会・経済・環境に**統合的に取り組む**

**透明性** **定期的にフォローアップ**

前身：ミレニアム開発目標（Millennium Development Goals: MDGs）

- 2001年に国連で専門家間の議論を経て策定。2000年に採択された「国連ミレニアム宣言」と、1990年代の主要な国際会議で採択された国際開発目標を統合したもの。

- 発展途上国向けの開発目標として、2015年を期限とする8つの目標を設定。

- ①貧困・飢餓、②初等教育、③女性、④乳幼児、⑤妊産婦、⑥疾病、⑦環境、⑧連帯
- MDGsは一定の成果を達成。一方で、未達成の課題も残された。
- 極度の貧困半減（目標1）やHIV・マフィア対策（目標8）等を達成。
- 乳幼児や妊産婦の死亡率削減（同④、⑤）は未達成。サブサハラアフリカ等で達成に遅れ。

環境  
(リオ+20)

人権

平和

## SDGs実施に関する日本政府の取組

- 総理を本部長、官房長官・外務大臣を副本部長、全閣僚を構成員とする**SDGs推進本部**を設置。
- 同本部の下、広範な有識者が集まり意見交換を行う**SDGs推進円卓会議**（注）を設置。

2016年	5月	SDGs推進本部設置（第1回会合）	→ G7伊勢志摩サミット（5月）
	12月	SDGs実施指針策定（第2回会合）	
2017年	6月	ジャパンSDGsアワード創設（第3回会合）	→ 国連ハイレベル政治フォーラム 自発的国別レビューを発表（7月）
	12月	SDGsアクションプラン2018決定 第1回ジャパンSDGsアワード表彰（第4回会合）	
2018年	6月	拡大版SDGsアクションプラン2018決定 SDGs未来都市選定（第5回会合）	
	12月	SDGsアクションプラン2019決定 第2回ジャパンSDGsアワード表彰（第6回会合）	
2019年	6月	拡大版SDGsアクションプラン2019決定 （第7回会合）	→ G20大阪サミット（6月）、TICAD7（8月） SDGサミット（9月）
	12月	SDGs実施指針改定 SDGsアクションプラン2020決定 第3回ジャパンSDGsアワード表彰（第8回会合）	

（注）SDGs推進円卓会議構成員

有馬 利男 GCAJ代表理事  
稲場 隆史 SDGs市民社会ネットワーク政策担当顧問  
大西 運 自立生活サポートセンター・もやい理事長  
春日 文子 国立環境研究所特任フェロー  
笠江 肇史 慶應義塾大学大学院教授  
河野 康子 全国消費者団体連絡会前事務局長  
近藤 哲生 国連開発計画駐日代表

高橋 剛広 GPIF理事長  
田中 明彦 政策研究大学院大学長  
根本 かおる 国連広報センター所長  
二宮 雅也 日本経済団体連合会企業行動・SDGs委員長  
三輪 敦子 一般財団法人アジア太平洋人権情報センター 所長  
一般社団法人SDGs市民社会ネットワーク 共同代表  
元林 稔博 日本労働組合総連合会総合国際政策局長  
山口しのぶ 国連大学サステイナビリティ高等研究所所長

（出典）外務省国際協力局地球規模課題総括課「持続可能な開発目標（SDGs）達成に向けて日本が果たす役割（令和2年1月）」

四国経済産業局で実施したアンケートの結果によると、四国の企業におけるSDGsの認知度は6割を超え、SDGsに取り組む企業のうち、本業を通じてSDGsに貢献している企業は4割にのぼる結果となっており、四国において、SDGsの取組が進行しつつある状況がうかがえます。

課題は、「メリットが分からない」「何から取り組んだら良いか分からない」ことにあり、情報提供や人材育成支援を望む声が多くあがっています。

## アンケート結果

✓ 四国におけるSDGsの **認知度** は **65%**

✓ SDGsに取り組む企業のうち、  
本業を通じてSDGsに貢献している企業は **40%** にのぼる

✓ 取り組む際の **課題** として、  
メリットが分からない（31%）  
何から取り組んだら良いか分からない（26%） と感じている企業が多い

✓ 支援策として、  
シンポジウムや取組事例のPRなど **情報収集・発信（34%）**  
実践ノウハウ・プロセス習得など **人材育成支援（26%）** を望む声が多い

調査対象：710社

四国内に本社が所在する創業100年以上（従業員10人以上）の老舗企業、②四国内の地域未来牽引企業

調査期間：令和元年12月～令和2年1月

回答数：218社（30.7%）



## 2 . SDGsの取組事例

自社の想いを伝える共通言語としての活用、地域への普及までも組み込んだ取組、さらにはSDGs活用が、ブランディングや人材確保などに効果を発揮した事例など、多様な取組事例がみられます。また、17のゴールから優先事項を検討して目標を設定する「先付けマッピング」の手法を導入し、SDGs活用を進める取組事例もありました。

### 取組事例

【業種】建設工事業、土木工事業 【従業員数】約150名

#### 取組内容等

##### （背景・きっかけ）

- ・自分たちの想いを社内外に伝え、共有するためのツールとして活用に取り組む

##### （取組事項）

- ・「地域社会との関わり」「地域環境との共生」等をテーマとした各種の取組

- ・建物の地域社会への開放を通じて交流の場を提供
- ・建築文化の保存、継承、再生に係る取組
- ・まちなみ再生や街の活性化にむけた取組を展開
- ・古民家改修
- ・ビオトープ事業 / 等

##### （取組にあたって大切なこと）

- ・「SDGsに取り組むことの必要性」に対する理解・認識

##### （社内・従業員への理解浸透）

- ・着手しやすいところから展開し、社内的な広がり構築
- ・SDGsに係る社内でのディスカッションを通じた理解・気づきの促進

#### 期待する効果

##### 説得力の向上

- ・自分たちの想いを伝えるための優れたツールであり、説得力の向上につながる

##### 企業価値の向上

- ・周りの人たちのSDGsについての理解が進めば、当社の取組が理解・評価され、企業価値の向上につながる
- ・価値観の共有を通じた需要の拡充も期待される

##### 視野の広がり

- ・SDGsを知ることで、環境以外の面にも視野が広がる
- ・社員への浸透に伴い、新事業・サービス等の創出も期待される

##### 地域の活性化

- ・地域の人と価値観を共有し、観光振興やまちづくりなどにおいて共に取り組めれば、地域の活性化にもつながる

### 取組事例

【業種】調剤薬局 【従業員数】約30名

#### 取組内容等

##### （取組事項）

- ・保険調剤、ヘルスケアで患者様の立場に立った治療のサポートや病気になるための健康支援。

- ・地域の教育機関と連携し、子どもたちに働くことについて考える機会を提供。（インターンシップや職場体験など）

- ・社内の環境を整備し、社員の生涯学習の機会を促進。

- ・資質向上と社員満足を原動力に、また、健康経営を内外に広め、働きがいのある人間らしい仕事を達成。

- ・地域の多職種と連携し、若者や高齢者など様々な世代の人たちが“帰れる”まちづくりに取り組む。

#### 推進方法・効果

##### 若手従業員によるマッピング

- ・SDGsと業務との紐付けを若手社員が担当 全体的なレベルアップが図られる。
- ・SDGsの取組を対外的に打ち出すことで、若手人材の確保にもつながる。

#### 地域への普及

##### 情報提供

- ・施設内でSDGsブースの設置、毎月発行する情報誌にSDGsに関する記事を掲載するなど、地域への情報提供に取り組む

##### 教育・啓発

- ・SDGsカードゲーム等の各種イベント、地域の人たちを対象とした勉強会等を通じて、地域におけるSDGsの理解・普及に取り組む

## 2 . SDGsの取組事例

### 取組事例

【業種】印刷、デザイン業 【従業員数】約30名

#### 取組内容等

##### (活動)

- ・メディア・ユニバーサルデザインの考え方に基いたデザインの提供
- ・働き甲斐の創出（インターンシップ・職場体験、会社見学の受入）
- ・環境配慮の推進（企業から出た紙ごみの再生紙使用等） / 等

##### (商品づくり)

- ・バナナペーパーカレンダー、紙製ファイル、避難所シールセット、SDGsワークショップ用ゲーム / 等

#### 効果・成果

##### 非財務情報が大きな価値を生む

- ・社員がプライドを持って働き会社を発展させられる
- ・同じ志を持った人や企業との関係性を築ける
- ・会社の**独自化・ブランディング**につながる
- ・多くの場所で発信する機会が得られる
- ・**人材確保**に貢献

#### 推進方法等

##### 「SDGs研修」の実施

- ・CSRに気づく
- ・自社の強みと課題を知る
- ・研修成果の情報開示

##### 個人の目標設定

Step1（マッピング）  
社長の目線での会社の棚卸  
社員目線での棚卸

##### Step2：バックキャストイング

2030年を起点に**未来のために何ができるか**、それを個人視点で目標に落とし込む

##### トップがやるという姿勢を見せる

- ・社員の意識改革については、この会社がこれからどのように舵を切るのか明確にすることが必要

CSR調達についても、マネジメント体制も含め進展しつつある状況が確認され、今後、サプライヤーも対応が求められることが考えられます。

### 取組事例

【業種】機械器具製造 【従業員数】約730名

#### 取引先とのコミュニケーション

##### (基本的な考え方)

- ・取引上の優越的立場を利用して不公正な不利益を与えない
- ・取引先と協調し、相互に事業の発展と企業価値の向上に結び付くように取り組む

##### (取組(例))

- 人材育成の支援と相互研鑽活動
  - ・取引先への研修・勉強会機会の提供
  - ・調達先企業による商品の特徴や性能に関する研修（自社担当者のレベルアップ）
- 取引先との関係強化に向けた取組
  - ・自社の経営状況や方針に関する説明会開催
  - ・最新の取組等を視察する企業見学会の開催
- CSR調達の推進**
  - ・サプライチェーン全体で社会的責任を実現
  - ・**ともに持続可能な成長、企業価値の向上**を目指す
- グリーン調達の推進
  - ・グリーン調達ガイドラインの策定
  - ・取引先に対するグリーン調達認定

#### CSR調達ガイドライン基本事項

1. 顧客満足・品質保証
2. 法令順守・倫理的企業活動
3. 人権の尊重・健康的で安全な職場形成
4. 環境保全・グリーン調達
5. 地域社会との共生・国際協調
6. 経営の透明性と説明責任

#### ガイドライン浸透のために

取引先へのガイドラインの送付・説明

CSR推進状況に関するアンケート

- ・取引先の取組状況に応じてガイドラインの利用を促す

対面でのガイドラインの説明

外部講師による講習会の開催 / 等

## 2 . SDGsの取組事例

### 取組事例

【業種】各種ケア製品卸 【従業員数】約1,500名

#### 調達ガイドライン

1. 法令・社会規範の遵守
  - 1) 法令の遵守
  - 2) 公正な取引、贈賄および賄賂の禁止
  - 3) 情報管理・保護
2. 人権・労働への配慮
  - 1) 国際人権章典、国際労働機関（ILO）宣言の尊重
  - 2) 人権尊重
  - 3) 非人道的な扱いの禁止
  - 4) 適正な雇用
3. 環境への責任
  - 1) 環境保全
  - 2) 持続可能な原材料調達の推進
4. 安全で安心な製品・資材の調達
  - 1) 安全な資材の供給
  - 2) 供給能力・品質の高い資材の供給

#### マネジメント体制

##### サプライヤーリスク評価

- ・新規サプライヤーには、独自に策定している「新規サプライヤー評価表」によりリスク評価を実施

##### 教育と浸透に向けた取組

- ・サステナブル調達ガイドラインのサプライヤーへの配布、ガイドラインの趣旨説明

##### 労働環境モニタリング

- ・モニタリングにより、課題を特定し、改善に向けた取組を促す
- ・指摘が検出された場合は、工場と連携して適切な措置を講じる

##### 定期モニタリング

- ・外部監査員が工場を訪問してモニタリングを実施
- ・指摘事項が確認された場合、適切な改善計画の策定を促し、問題を解決できるよう支援
- ・所定期限内に改善できなかった場合には、現地工場に赴き指導を実施

### 取組事例

【業種】建築工事業 【従業員数】約16,500名

#### 木材調達ガイドライン

- ・多面的な視点で調達木材を評価できるよう10の指針からなる木材調達ガイドラインを策定

##### 10の指針

1. 違法伐採の可能性が低い地域から産出された木材
2. 貴重な生態系が形成されている地域以外から産出された木材
3. 地域の生態系を大きく破壊する、天然林の大伐採が行われている地域以外から産出された木材
4. 絶滅が危惧されている樹種以外の木材
5. 生産・加工・輸送工程におけるCO<sub>2</sub>排出削減に配慮した木材
6. 森林伐採に関する地域住民等との対立や不当な労働慣行を排除し、地域社会の安定に寄与する木材
7. 森林の回復速度を超えない計画的な伐採が行われている地域から産出された木材
8. 計画的な森林経営に取り組み、生態系保全に寄与する国産木材
9. 自然生態系の保全や創出につながるような方法により植林された木材
10. 資源循環に貢献する木質建材

#### 推進方法等

##### 先付けマッピング

- ・経営ビジョンに照らして、17のターゲットゴールから優先取組事項を検討（＝先付けマッピング）し、取組目標を設定

Step1：SDGsの理解の浸透…社内の共有

Step2：これまでの取組の洗い出し（後付けマッピング）

Step3：経営ビジョンと優先取組事項の設定（先付けマッピング）

Step4：経営計画の策定と実行…KPI

Step5：フォローアップと情報発信

## 3. 「四国SDGs研究会」開催概要

SDGs活用の推進にあたり、取り組むべき方向性等を検討する場として、「四国SDGs研究会」を設置。経済団体、支援機関、金融機関、自治体等の参加のもと、各回テーマに基づくゲストスピーカーに講演をいただき、3回にわたって研究を実施しました。

また、第3回研究会では、四国地域での現状や、研究会での成果等を踏まえ、四国地域におけるSDGsの取組を推進する上での課題、その課題を克服して企業のSDGs経営を進めていくための方策等についてグループディスカッション形式で討議を行いました。

### 研究会参加メンバー

経済団体、支援機関、金融機関、自治体 等

#### 【第1回研究会】 令和元年9月12日（木）14:00～16:00

##### SDGsを地域金融の場でいかに実装するか

ゲストスピーカー：日本政策投資銀行 執行役員 竹ヶ原 啓介様

ESG投資の動向、ESG投資とSDGsの関係、ESG / SDGsの企業への普及における地域金融機関への期待等について講演をいただき、意見交換を行いました。



#### 【第2回研究会】 令和元年11月29日（金）14:00～16:00

##### 中小企業のモデル事例

ゲストスピーカー：株式会社マルワ 代表取締役社長 鳥原 久資様

中小企業がSDGsに取り組む理由、全社一体となった取組の推進、SDGsに取り組むことによって得られた成果・効果について講演をいただき、意見交換を行いました。



#### 【第3回研究会】 令和2年1月17日（金）14:00～16:00

##### 大企業のSDGsに係る調達動向

ゲストスピーカー：積水ハウス株式会社 環境推進部部長 佐々木 正顕様

SDGsの実践的活用として、自社の取組をご紹介いただくとともに、当社の「木材調達ガイドライン」について、ねらいとするところ、運用方法・実態等をご紹介いただき、意見交換を行いました。



#### 〈グループディスカッションによる意見交換の概要〉

以下のテーマを中心に、グループごとに意見交換を行い、参加者全員で検討結果を共有しました。

（討議テーマ）

グループ討議：四国地域におけるSDGsの取組推進に係る課題について

グループ討議：四国地域におけるSDGsの取組推進に係る方策について



## 4 . 研究会要約 ~ SDGsの取組に伴うチャンス・リスク・ハードル ~

研究会の成果として、SDGsの取組に伴うチャンス・リスク・ハードルを要約すると、以下のように整理されます。これらを踏まえ、今後の推進方策等を検討することが必要になるものと考えます。

### チャンス（＝メリット）

- ✓ 共通言語として、  
ステークホルダーとの**コミュニケーションツール**として利用できる
- ✓ 世界共通の目標で自社のことを考え、  
従業員の**モチベーション向上**や**意識統一**にも繋がる
- ✓ 学生などからの関心も高く、  
**採用**に繋がる可能性がある（**企業イメージの向上**）
- ✓ ESG投資の観点で、  
金融機関からの**新たな投資**を呼び込むことができる
- ✓ SDGsを通じて、  
**新たな販路**や**事業機会（ビジネスチャンス）**が生まれる

### リスク

- ✓ 大手企業等、**CSR調達**の動きが主流化しつつあり、  
取引環境に影響を及ぼす
- ✓ 自然環境・社会環境の**中長期的な変化**に対応できなくなる恐れがある

### ハードル

- ✓ 自分事として身近に感じることができず、  
ピンと来ない人が多い（**社内への浸透**が難しい）
- ✓ **何から**手を付けたら良いか分かりにくい、  
マッピングの**次に**何をしたらよいか分からない

# 5. 「四国SDGs経営フォーラム」開催概要

研究成果等を踏まえ、四国地域におけるSDGs活用のさらなる普及に向けて、「四国SDGs経営フォーラム」を開催しました。

基調講演には、田瀬和夫氏（SDGパートナーズ有限会社代表取締役CEO）をお迎えし、「中小企業にとってのSDGs」をテーマに講演をいただきました。また、パネルディスカッションでは、四国地域の企業、団体にご登壇いただき、会場からの質問もいただきながら、取組の動向や課題、今後の取組等について議論しました。

当日は、約240名の方に参加いただきました。

## 四国SDGs経営フォーラム

～SDGs経営による企業価値向上のために～

日時：令和2年2月10日（月）13:30～16:00

場所：かがわ国際会議室 香川県高松市サンポート2-1  
高松シンボルタワー タワー棟6階

主催：経済産業省四国経済産業局



### プログラム

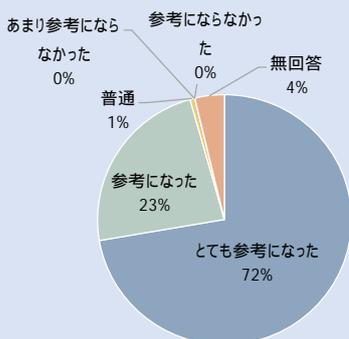
基調講演 13:35～14:25	中小企業にとってのSDGs ～SDGsとは何か？どのように取り組むべきか？～ SDGパートナーズ有限会社 代表取締役CEO 田瀬 和夫 氏
パネルディスカッション 14:30～16:00	SDGs経営による企業価値向上のために 【モデレーター】 SDGパートナーズ有限会社 代表取締役CEO 田瀬 和夫 氏 【パネリスト】 一般社団法人香川経済同友会 代表幹事 宮本 吉朗 氏 株式会社朝日通商 代表取締役社長 後藤 耕司 氏 喜多機械産業株式会社 常務取締役営業本部長 喜多 真一 氏 四国経済産業局 総務企画部長 永見 靖



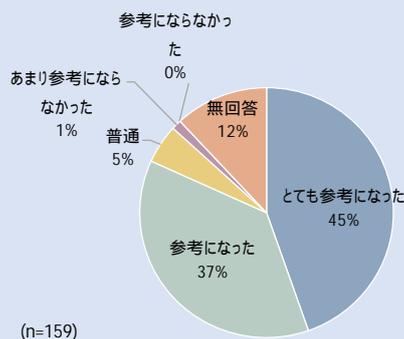
### 会場アンケートの結果

- ✓ 基調講演では9割を超える方より、パネルディスカッションでは8割を超える方より、参考になったとの感想をいただきました。
- ✓ フォーラム受講後のご意見として、SDGsの推進に有効と思う支援は、「情報収集・発信支援」が6割超と高く、次いで「人材育成支援」（約5割）となっています。

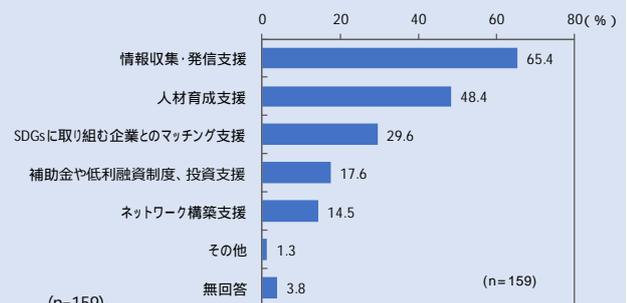
基調講演の感想



パネルディスカッションの感想



SDGsの推進に有効と思う支援  
(2つまで選択)

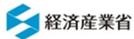


# 6 . 今後に向けて

SDGs活用にあたって情報提供を求める声が多くありますが、その背景には、「何から手を付けたら良いか分かりにくい」「マッピングの次に何をしたらよいか分からない」といったことがあると考えられます。

四国地域でのSDGs活用の拡充に向けて、「まず、はじめてみる」を支援できる情報提供、ツール、機会等を提供していくことが今後の支援として考えられます。

## 導入支援ツール（例）のご紹介



### SDGs はじめてみませんか？ Ver.1.0.0 ～製紙業を例に～



四国経済産業局

0

### 1 . 持続可能な開発目標（SDGs）とは？

- 持続可能な開発目標（SDGs）とは、2001年に策定されたミレニアム開発目標（MDGs）の後継として、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標です。
- 持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さない（leave no one behind）ことを誓っています。
- SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル（普遍的）なものであり、日本としても積極的に取り組んでいます。 出典：外務省ウェブサイト

#### 参考資料

経済産業省：「SDGs経営ガイド」  
<https://www.meti.go.jp/press/2019/05/20190531003/20190531003.html>  
環境省：「持続可能な開発目標（SDGs）活用ガイド」  
<https://www.env.go.jp/policy/sdgs/index.html>  
国連グローバル・コンパクト、GRI、WBCSD：「SDG Compass」  
<http://ungcn.org/sdgs/index.html>  
SDGsのロゴ  
[https://www.un.org/activities/economic\\_social\\_development/sustainable\\_development/2030agenda/sdgs\\_logo/](https://www.un.org/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/sdgs_logo/)

1

## 2 . SDGsに取り組む目的は？

- 「SDGsという世界共通の言語ができた」、「企業にとってチャンスとリスクをもたらす」等とされていますが、何からはじめていけばいいのか、何をすればいいのか、悩むことはありませんか？

何からはじめればいいのか？

国連の目標と自社の取組に  
関係があるのか？

17のゴールすべてに  
取り組まないといけないのか？

社長や社員にどうしたら  
理解してもらえるのか？

何もしなくても  
困らないのではないのか？



2

# 6. 今後に向けて

## 3. このようにはじめてはどうでしょうか？

- まずは自社のウェブサイトやパンフレットに掲載している製品やサービスについて、ラベリングをしてみてもどうでしょうか？
- 部門をこえて話し合いながらラベリングすると新たな視点加わるのではないのでしょうか？



3

- 社内検討結果をもとに、ウェブサイトやパンフレットで社外に発信してはどうでしょうか？ 1つの製品がSDGsの多数の分野で貢献していることを紹介できるのではないでしょうか？
- 社外に発信することで、取引先や社員の家族からも、新しい視点がもらえるのではないのでしょうか？



4

- 自社の川上から川下までの活動を、SDGsの観点から見直してみてもどうでしょうか？

分野	活動の内容	取り組んでいること	環境・社会への影響		目標は？
			プラスの影響	マイナス面の抑制	
調達	原材料(木材チップ)の調達	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 植林事業</li> <li>● 森林認証を取得しているチップサプライヤーとの取引</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・持続可能な原材料調達が実現できる</li> <li>・森林の公的機能、生態系サービスを持続的に利用できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・森林の減少抑制</li> <li>・CO<sub>2</sub>の固定化</li> </ul>	2030年までに排出するCO <sub>2</sub> の70%を吸収・固定する！
生産	パルプ製造で大量の水を使用 → 廃液の発生	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 廃液を利用したバイオマス発電</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バイオマス資源の有効利用に係る技術革新への貢献</li> <li>・再生可能エネルギー利用によりCO<sub>2</sub>削減に寄与</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水質への負荷物質の排出抑制</li> </ul>	2030年にはバイオマスエネルギー比率を50%以上に引き上げる
廃棄	廃棄物の削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 設備導入により排水処理汚泥焼却灰を削減</li> <li>● 焼却灰、汚泥等の再利用</li> <li>● 再利用目的での中間処理業者の切替え</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・処理コストの削減</li> <li>・最終処分場の延命化</li> <li>・社会的課題の解決に向けたパートナーシップの構築</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・廃棄物の発生抑制</li> </ul>	2030年までに産業廃棄物最終処理処分量を2013年比で15%減を実現する！
リサイクル	古紙、難処理古紙等の再生・有効利用	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域と協力した古紙の回収</li> <li>● 精選工程から出る廃プラスチックをRPF化</li> <li>● インキ成分等を再生原料として回収</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会的課題の解決に向けたパートナーシップの構築</li> <li>・難処理古紙有効利用に係る技術開発</li> <li>・廃プラスチックの資源循環への寄与</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・廃棄物の発生抑制</li> <li>・環境汚染の防止</li> </ul>	2030年までに難処理古紙利用量を2013年比115%まで引き上げる！

5

## 4. SDGsに取り組む目的（期待される効果）が見えて来ましたか？

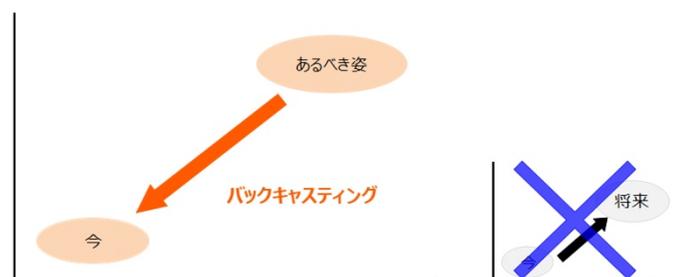
- 社内、社外、一連の事業活動など、視点を変えてみることで、SDGsとの関係が広く見えてきませんか？
- SDGsへ取り組む意義や目標、これからの取り組みなどが見えてきませんか？
- 関係者との協力、ステークホルダーとのコミュニケーションが大切だと感じませんか？
- 社員のモチベーションの向上につながりませんか？
- 新たなビジネスチャンスが見えませんか？



6

## 5. 最後に

- SDGsは、2030年までの世界の「あるべき姿」を示しています。「今できること」の延長線上に将来を予測するのではなく、将来の「あるべき姿」から逆算して、「今何をすべきか」を考える「バックカスティング思考」が必要だと言われています。
- 未来のあるべき姿も考えてみませんか？



7

# 各種情報の紹介

## 基礎情報

JAPAN SDGs Action Platform	「SDGsとは」「17の目標」「169のターゲット」「ターゲットごとのグローバル指標」の解説、日本政府の取組、国内取組事例等SDGsに係る諸情報を総合的に紹介
【外務省】	<a href="https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/index.html">https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/index.html</a>

## SDGs活用に係る入門書

SDGs経営ガイド	SDGsに関する現状認識を多様な観点から示し、企業が「SDGs経営」を実践する際に有用な視点を整理・紹介
【経済産業省】	<a href="https://www.meti.go.jp/press/2019/05/20190531003/20190531003.html">https://www.meti.go.jp/press/2019/05/20190531003/20190531003.html</a>

持続可能な開発目標（SDGs）活用ガイド	企業にとってSDGsに取り組む意義について解説し、具体的な取組の進め方を示す。また、既にSDGsに先駆的に取り組んでいる企業の事例などを紹介
【環境省】	<a href="https://www.env.go.jp/policy/sdgs/index.html">https://www.env.go.jp/policy/sdgs/index.html</a>

SDG Compass	企業の事業にSDGsがもたらす影響を解説し、企業が、いかにしてSDGsを経営戦略と整合させ、SDGsに向けた貢献を測定し管理していくかに関して指針を提供するもの
【UNGC他】	<a href="http://ungcjin.org/sdgs/pdf/SDG_COMPASS_Jpn.pdf">http://ungcjin.org/sdgs/pdf/SDG_COMPASS_Jpn.pdf</a>

## プラットフォーム

地方創生SDGs官民連携プラットフォーム	SDGsを共通言語として、課題解決に取り組む官民の連携創出を支援することを目的に設立されたプラットフォームであり、マッチング支援、分科会の開催、普及促進活動等を通じて先駆的な取組の創出を図る
【内閣府】	<a href="http://future-city.jp/platform/">http://future-city.jp/platform/</a>

関西SDGsプラットフォーム	SDGsの取組の重要性の周知、各ステークホルダーの連携と協働により関西において高い社会的価値を生み出す経済活動を加速していくこと等を目的として設立されたプラットフォーム
【JICA関西他】	<a href="https://kansai-sdgs-platform.jp/">https://kansai-sdgs-platform.jp/</a>

## CSR調達に係る基礎情報

CSR調達入門書	サプライチェーンにおけるCSR調達の重要性の理解を促すための手引書であり、CSR調達とは何か、サプライチェーンにおける社会・環境リスクやCSR調達に取り組むことのメリット等を紹介
【GCNJサプライチェーン分科会】	<a href="http://ungcjin.org/activities/topics/detail.php?id=270">http://ungcjin.org/activities/topics/detail.php?id=270</a>